

第 39 回大阪大学技術職員研修

古川 和弥, 松下 雄貴, 奥村 由香, 大西 政義
産業科学研究所 技術室

1. 研修先及び研修期間

研修先: 豊中キャンパス、オンデマンド受講

研修日: 令和 6 年 8 月 29 日 (木)、オンデマンド受講日

2. 研修の目的

技術職員に対し、職務に関する必要な知識・技術等を広く習得させるとともに、自己啓発、相互啓発の機会を与えることにより、職員の資質の向上を図ることを目的とする。

3. 研修の概要及び成果

1 日目は全体講義 1 件、技術職員発表 1 件、技術職員講演 2 件、及び普通救命講習が行われた。全体講義Ⅰでは極低温下での物質の挙動やヘリウムの供給状況、強磁場発生に用いられる特殊コイルの原理等に関する知見が得られた。技術職員講演Ⅰでは効果的なプレスリリースの手法や、HP 製作に重要となる CMS の技術に関する情報が、技術職員講演Ⅱでは附属研究施設における分析業務の状況や科研費申請に関する情報がそれぞれ得られた。技術職員発表では、PPAP セキュリティ問題に関して、サーバーの応答状況確認の実演を伴って解説された。

2 日目は台風の接近に伴い、現地開催からオンデマンド視聴に変更になり、2 件の全体講義と 2 件の技術職員発表が行われた。全体講義Ⅱでは老朽化の進むインフラの劣化メカニズムと修繕方法、さらに衝撃弾性波検査法に基づく劣化診断システムに関する知見が得られた。全体講義Ⅲでは安全衛生管理の法律や、ガスボンベ、薬品等の取り扱いに関する知見が得られた。技術職員発表では NC 工作機械と AI の関わり、アルファ線核医学治療用アスタチン-211 の製造と管理に関する報告があった。

4. 研修の感想

2 日目の現地開催が中止となったことは残念だが、阪大の授業システムを用いたオンデマンド開催により無事受講を完了し、多様な技術的知見が得られた。多分野の教職員・学生のサポートを行う技術職員にとって、本研修は多方面のバックグラウンドを得るための重要な機会であり、技術職員間の情報交換により今後の連携につながることも多い。また救命救急を含めた安全管理に関する情報・経験が得られた貴重な機会となった。最後に、本研修の企画立案から準備までご担当いただきました理学研究科技術部及びワーキンググループの皆様はこの場をお借りして感謝を申し上げます。